

指導案資料

1 単元の目標

- チームの仲間と協力し合って取り組み、ルールを守り、勝敗を素直に認めることができるようにする。
【運動についての関心・意欲・態度】
- チームで簡単な作戦を立てたり、ルールの工夫をしたりすることができるようにする。
【運動についての思考・判断】
- ドリブルやパスを用いながら、ゴールマンがとりやすいシュートができるようにする。【運動の技能】

2 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能
単元の評価規準	・チームとして友達とかかわりながら、ゲームや練習をしたり、ルールを守り、ゲームの勝敗を素直に認めたりしている。	・得点をするために、よりよい手段を考えながらゲームをしたり、チームで作戦を考えたりしている。	・簡単なボール操作を身に付け、シュートをすることができる。
関学し習った活評動価に規準	①友達に教えたり、賞賛の声掛けをしたりしている。 ②ルールを守り、勝敗を素直に認めようとしている。	①守りの動きを意識しながら、シュートの仕方やドリブル・パスの判断をしている。 ②チームに合った作戦を考えたり、ルールの工夫をしている。	①山なりシュートができる。 ②ゴールに向かうためのドリブルやパスができる。 ③空いている場所に動いてボールをもらうことができる。

3 指導の構想（単元）

単元を通して、個人の技能向上に伴う運動の楽しさとともに、協力して学習に取り組み、楽しさを分かち合いながら、集団種目としての楽しさを味わわせたい。これまでの児童の実態をふまえ、慣れの運動からチーム単位で取り組ませることで、友だちと協力する意識を高められるようにする。また、全員が未経験ということから、準備運動として毎時間ボールに慣れる運動を取り入れるようにする。

(1) 単元を通して、ボール慣れの時間を確保

児童の実態から考えて、ボール操作の基本的な技能の前にボール慣れの時間が必要と考える。しかし、そのために反復練習ばかりになっては、ゲームの楽しさを味わわせることができなくなってしまう。そこで、単元を通してボール慣れのための運動を取り入れ、全員がボールに触れる時間を確保するようにしたい。ドリブルやシュートなど、初めて経験する児童が多い中で、基本的な技能のすべてを1単元の中で習得させるのは、実態から考えても難しいと思える。最初から困難と思われる基本的な技能の習得はせず、児童の実態に即したものを単元の基本的な技能としてとらえる。

シュート：両手を使って、山なりシュートができる。

キャッチ：両手を使って、捕球できる。

ドリブル：片手でボールをつける。ボールをつきながら、まっすぐ進める。

毎時の導入でボール慣れの時間を入れ、どの児童にもボールに触れる時間を確保する。習得させたい技

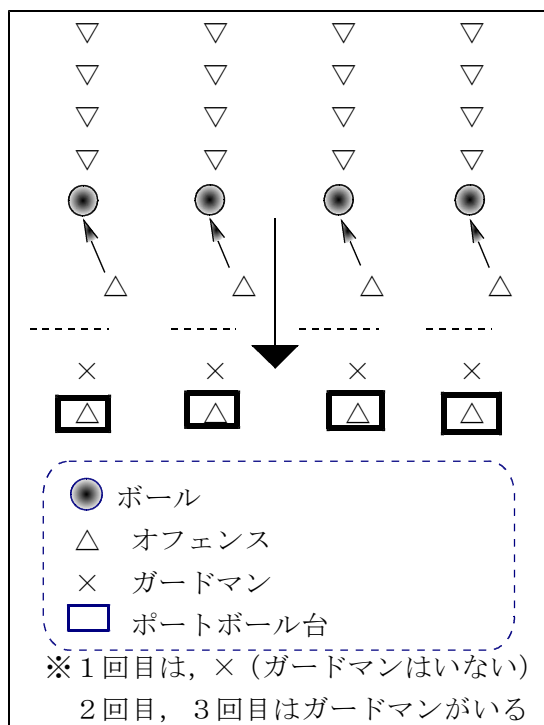
能は、練習ゲーム中に取り入れるようにし、児童の意欲を損なわないようにしたい。

- ・ボールの投げ上げキャッチ
(ボールを投げて、拍手をしてとる)
- ・ジャンプキャッチ
- ・壁パス
- ・二人組 (三人組) のパス
- ・コピードリブル
- ・ドリブル鬼ごっこ

(2) 基本的な技能を身に付けるためのドリルゲームの工夫

身に付けさせたい技能

- ・ドリブルリレー (ドリブル)
- ・ジグザグドリブル (ドリブル)
- ・ドリブルシュートゲーム (山なりシュート) **本時**
- ・とりかごゲーム (パス・動いてもらう (キャッチ))



※ドリブルシュートゲーム (山なりシュート)

- ①
 - ・兄弟チームごとに並ぶ。
 - ・味方からのパスをもらう。
 - ・ゴールマンに向かってドリブルをし、ラインでストップ、シュート。
 - ・ゴールマンがキャッチできたら2点。さわれたり、落としたりしたら1点。さわれなかったら、0点。
 - ・シュートをした児童が得点板の点数をめくる。
 - ・時間は、2分間。
 - ②
 - ・ガードマンをつけて、同じゲームを行う。
 - ③
 - ・山なりシュートを確認し、山なりシュートの練習をする。
 - ・ゴールマンが持ったかごの中にシュートする。
- ②と同じルールでゲームを行う。

※とりかごゲーム (もらいかた・パス)

(オフェンス)

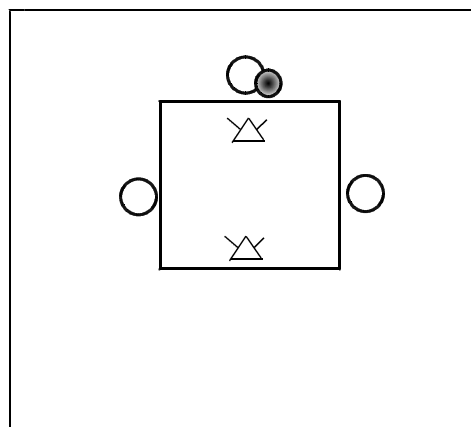
- ・四角の外で5回パスをする。パスを出せるのは、隣り合った辺にいる味方だけとする。

(ディフェンス)

- ・ディフェンス人は、5m×5mの四角形の中に入って、パスカットをねらう。

(交代)

- ・パスが5回成功するか、ディフェンスに3回パスカットされたら交代



(3) シュートしやすい状況を保障するゲームの設定

山なりシュートを試す 本時

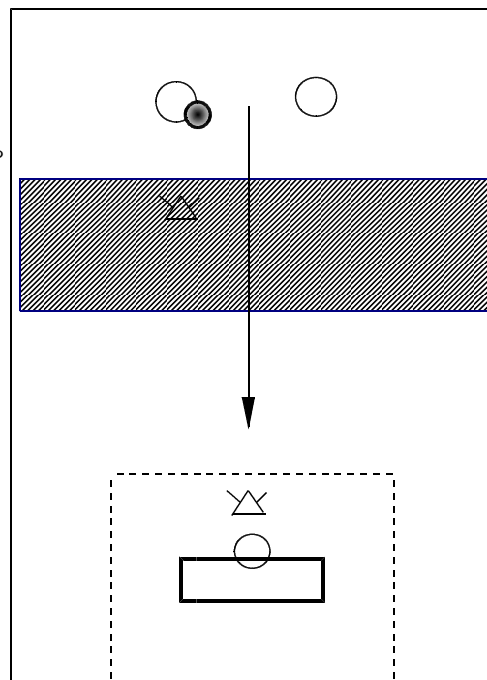
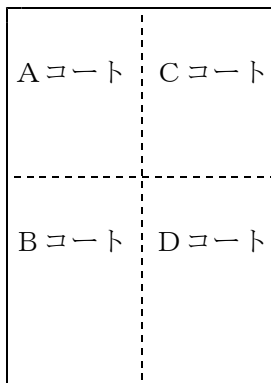
※2対1のゲーム

- ・4コートを使用する。
- ・練習したことが試せるように「シュート」のチャンスが得やすいように工夫をする。
- ・攻守切り替えのある2対1のゲームにする。
- ・1試合2分×2。
- ・グリッドコートにし、ディフェンスが動ける範囲（網掛け）に制限をかける。
- ・ゴールマンがキャッチできたら2点。
- ・得点をきめた子どもは、ゴールマンと交代する。



※本時以降

- ・ディフェンスの制限をなくす。
- ・2対2で行う。
- ・コートを広くする。



(4) チーム編成

兄弟チームの編成・練習ゲームでのオフENSEの攻撃面を考慮して、2対1もしくは、3対2という数的優位の状況を用意した。1チーム3人を基本的に編成する。

(26名) 3人×6チーム=18人 4人×2チーム=8人 計8チーム

4 単元計画

〈指導計画〉

はじめ	なか ①	なか ②	まとめ
1	2	4	6
学習の進め方について知り、見通しをもつ ○ボールに慣れる運動 ・ボールキャッチ ・ボールつき ・壁パス ・とりかごゲーム（ディフェンスなし） ○ハンドリング ・ボール運びリレー	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ねらい① シュートやドリブルなど、個人の基本的技能を身に付けてゲームを楽しもう </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 準備運動（ボールになれる運動を含む） ○ドリブル練習やハンドリング </div> ○とりかごゲーム（3対1） ○基本的なドリブル ・ドリブルリレー ・ジグザグドリブル ・まねっこドリブル ○ドリブルの距離を変えながらドリブルシュート練習ゲ	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ねらい② 身に付けた基本的技能を生かして、ルールを工夫しながらゲームを楽しもう </div> ○実践に近づけた練習ゲーム ・ディフェンスを入れて、3対2でのとりかごゲーム ・空いている場所に動いてパスを受け取る練習 ○2対1のゲーム	ポートボール大会 ・2対2

<ul style="list-style-type: none"> ボールタッチ その場ドリブル 	<ul style="list-style-type: none"> ゲーム ○パスをもらってからのドリブルシュートゲーム ○山なりシュートのドリブル練習ゲーム ○ガードマンをつけてのドリブルシュートゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> ○2対2のゲーム・チームごとに作戦・ルール変更の話合い
○チーム分け	<ul style="list-style-type: none"> ○2対1のゲーム (ガードマンなし) ○2対1のゲーム (ガードマンあり) (グリットコート) 	

〈学習内容・学習課題及び評価〉

※○囲み数字は、2単元の評価規準と対応

学習内容・学習課題 (全6時間)		評価規準			評価対象
		態度	思・判	技能	
1	ボールに慣れよう	①			全員
2	ボール操作・ドリブルの練習をしよう	①		②	全員
3	シュートの練習をしよう		①	①	全員
4	あいている味方へのパスを練習しよう とりかごゲーム		①	③	半分
5	みんなが楽しめるルールを考えてゲームをしよう (2対2)		①	③	半分
6	みんなが楽しめるルールを考えて、ゲームをしよう	②	②		全員

5 本時の評価

	楽しむ	できる	分かる
A	・チームの中で積極的に声を出し、練習やゲームに取り組んでいる。	・山なりシュートができる	・ゴールマンがとりやすいシュートの仕方が分かる。
B	・友達と協力し、ゲームに取り組んでいる。	・シュートができる。	・シュートの仕方が分かる。

A：十分満足できる状況

B：おおむね満足できる状況

6 児童の実態 男子12名 女子14名 計26名

(1) 体育の好感度について

◇体育の授業は好きですか

好き	まあまあ好き	あまり好きではない	嫌い
20人	6人	0人	0人

◇どんな運動が好きですか

ドッジビー	リレー	サッカー	ドッジボール	鬼ごっこ
9人	6人	5人	3人	3人

(2) 既習の学習について

◇2年時サッカー（ゴール型）の授業はどうでした

楽しかった	まあまあ楽しかった	あまり楽しくなかった	楽しくなかった
16人	1人	9人	0人
シュートが打てた⑩ 上手に蹴られた② チームが強かった② パスができた②	試合に負けたけれど、 自分もうまくできた	ボールに触れない④ パスがこない② ルールが分からない① 文句を言われた① 男子の蹴るボールが当たっ て痛かった①	

◇3年2学期・ハンドベースボール（ベースボール型型）の授業はどうでしたか

楽しかった	まあまあ楽しかった	あまり楽しくなかった	楽しくなかった
24人	0人	2人	0人
遠くに飛ばせた うまく打てた⑩ 点数を入れられた④ 試合に勝った②		走るのが嫌い① ルールが分からない①	

◇友達に声をかけたり、かけてもらったりしましたか。

かけたりかけられたりした	かけた	かけられた	かけたりかけられたりしていない
17人	8人	1人	0人
ドンマイ・いいよいいよ・ だいじょうぶと言われて安 心した すごいねと言われてうれし かった がんばろうねと言われた	遠くにとぶ打 ち方を教えた 守るときの作 戦を教えた	うまく打てた ときに、ナイ ス！と言われ てうれしけれ た	

(3) ポートボールについて

◇ポートボール（ミニバス）のやり方を知っていますか

知っている	知らない
3人	23人

◇技能

2人組のパス（ 3m 1分間）

31～40回	41～50回	51～60回	61回以上
4組	4組	1組	4組

※ 下から抱え込むキャッチ・そのまま下から投げるパスが多い。

※ パスが弱く相手まで届かない。

ドリブル

(その場で10回)

できる	できない
18人	4人

※強さ・方向のコントロールができない。

直線ドリブル 15m

スムーズに走ることができる	ゆっくり走ることができる	直線で進めない
6人	16人	4人

※強さ・方向がコントロールができない。

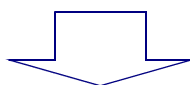
※跳ね返ったボールをつけない。

◇ドッジボールやリレーなど、友達と一緒に運動をすることを好む児童が多い。

◇既習の学習から

- ・シュートが入った、ボールを遠くに打てたなど、得点につながる動きができたときに喜びを感じるが多い。
- ・技能面に不安を感じたり、得意な人ばかりが活躍して自分が思うように運動に参加できなかつたりすると、楽しさが感じられない。

◇ミニバス経験者は0人。学校のきまりで、休み時間のボール使用ができないということもあり、どの児童もボールを「つく」経験が乏しい。パスやキャッチもドッジボールの捕球のように下から抱え込むとり方が多く見られた。



学校の運動環境から考えて、ボール運動に関しては、体育の学習での経験が重要である。児童の多くが楽しさを感じているシュートやシュートにつながる動き（とくに、休み時間の遊びの中での経験の少ないドリブル）を大事にしたい。ポートボールは今後、ミニバスにつながっていくので、ゲームを楽しむために必要な、ドリブル・パス・シュートの基本的な技能を身に付けておくことが、高学年になってもボール運動を楽しめることにつながると考えられる。

どの児童も運動に対する意欲が高く、ポートボールを楽しみにしているため、ゲーム中は、同じ児童にボールの保持が偏らないようにルールを工夫し、学習意欲を持続しながら取り組ませたい。また、友達に声をかけてもらったり、教えてもらったりすることで安心し、自信をもって取り組める児童も多いことから、意図的に友達同士の声かけや、教え合いの機会をもたせたいと考えている。